

「標題学」の視座

相田 満

《一》はじめに

作品に「標題 (title)」は不可欠なものであり、「標題」のない作品というものは、何となく落ち着かない。「標題 (title)」は、作品そのものではないが、作品と切っても切り離せぬ、不可分の関係にあるものといえよう^{〔まこ〕}。ところが、文芸作品、とりわけ詩の中には、次のように「標題」と作品の関係を意図的に逆手に取った仕掛けをもつものもある。一例を示そう。

南風は柔らかな女神をもたらした。

青銅をぬらした、噴水もぬらした。

ツバメの羽と黄金の毛をぬらした。

潮をぬらし、砂をぬらし、魚をぬらした。

静かに寺院と風呂場と劇場をぬらした。

この静かな柔らかな女神の行列が

私の舌をぬらした。

西脇順三郎の「雨」(『Anbaralia』所収)である。この詩は、「雨」という題名を念頭に置いて読まなければ、十分に内容を理解することができない仕掛けがほどこされている。

たとえば、「柔らかな女神」や「ぬらす」という言葉の連続にはどういう意味があるのか……など、詩の主役である「雨」を喻える表現は随所に見えるものの、肝心の「雨」という言葉は詩中に組み込まれてはいない。つまり「雨」という標題の言葉を読み流すと、読者は正体のわからぬ比喩の連鎖にとまどってしまうのである。その意味で、この詩は、謎々のような仕掛けにもなっているともいえよう。

謎々の詩といえば、『不思議の国のアリス』(ルイス・キャロル)にも登場するマザーグースの「ハンプティ・ダンプティ (Humpty Dumpty)」は、あまりにも有名である。

"Humpty Dumpty sat on a wall. (ハンプティ・ダンプティ塀の上)

Humpty Dumpty had a great fall. (ハンプティ・ダンプティ落っこった。)

All the king's horses, And all the king's men. (王さまのお馬と、王さまの家来がみんな寄っても)

Couldn't put Humpty together again. (ハンプティ・ダンプティもどせない。)
い。」「相田訳」

これは詩中の「ハンプティ・ダンプティ」という意味不明の言葉が一体何なのかを問う謎々となっているもので、答えは「卵」。「覆水盆に返らず」ということわざと同様、こわれたものは二度と戻らないという寓意が込めら

れた詩である。『アリス』には、卵から造形されたキャラクターが挿絵に登場しており、いつからかこの詩自体も「ハンプティ・ダンプティ」という「標題」を持つものとして定着している。

《二》「標題」はどこにある

ここであげた詩のように、作品には「標題」がつきものだという常識を揺さぶる意匠を凝らしたものは少なくない。こうした詩が生まれた背景には、人間が長い歴史をかけて生み出し続けてきた知的・文化的活動の生成物には必ずしもいいほど存在するという理解が、相当に一般的なものになっていることの裏返しにほかならないといえる。

詩のような文芸作品に限らず、およそ人間の文化的生産物に「標題」は不可欠である。しかも、「標題」が付与される対象はそれだけに限らない。工業・農業・サービスなど、およそ人間の社会生活に関連するさまざまな分野に及ぶ。

たとえば、西洋ロマン主義盛行時には、何事にも「詩化」された解釈を加える鑑賞態度と曲作りが流行し、「標題音楽」と呼ばれたものが数多く作られた。また、料理の世界では、オペラの歌姫にあやかった「ピーチメルバ(Pêche Melba)」が作られたように、聞いただけで想像力をかき立てられる、詩的な意匠の凝らされた命名も多く行われており、今に至っている。さらに、経済活動における「標題」の重要性は、ますます高まりつつある。特に「商標」の世界に至っては、命名されるべき実体が誕生するよりも前に名前が案出され、登録を行うことが一般的になっており、そこに巨額の富が動くことも珍しくなってきた。

中には「*ミミ*」を獲得したツバル国のように、テレビ局がドメイン使用权を巨

額で購入したおかげで、国連加盟を果たせたほどの利権を生んだりもしている。その一方で、その意匠の剽窃やブランドイメージを損なう異業種での使用行為(ポルキューション)をめぐる訴訟も起きており、「標題」の社会生活への影響の大きさをうかがわせている^[註11]。

また、近年の傾向としてプロスポーツ界で「名前」が完全に商品と化していることを実感させる事例が頻出していることもあげられよう。いくつか列挙してみよう。

○Jリーグチームの本拠地「東京スタジアム」(東京都調布市)が命名権(Naming Rights)を売却して「味の素スタジアム」に命名変更したのに続き、オリックス本拠地、「ヤフーBB球場」に名称変更^(2003・3)
○巨人・阿部慎之助捕手、『阿部慎之助』のロゴマークを商標登録出願^(2003・3)

○二〇〇三年度セントラルリーグ優勝を果たした阪神球団に先駆けて、「阪神優勝」が二〇〇一年にすでに千葉県在住の人により商標登録がなされていたことが判明^(2003・7)

○「近鉄バッファローズ」が球団名の命名権(Naming Rights)の売却を表明

(2004・1)、しかし、球界の反対強く断念^(2004・2)

このように、「もののなまえ」が知的財産として非常に高い価値を持ちうるものだということを認識させる事例が頻出しており、その関心はますます高くなりつつある。

ところが、「標題」を体系的に扱おうとする研究は稀少なのは、事例があまりにも多様で膨大であるため、手がつけられなかったためであろう。

しかし、情報機器の発達と情報資源流通の活性化により、対象事例の取材と蓄積、そして分析作業が格段に容易となった。研究の端緒は開かれつ

つあるといつてよからう。

《三》「標題」とは何か

およそ「標題」というものは「命名」という創作行為と密接に関わり、その対象物（作品）と不可分に結びつき、直感的にその内容を表現・説明するだけでなく、対象物（作品）それ自体の魅力を左右する。すぐれた標題は、その作品の魅力を増し、あるいはいまだそれにふれていない鑑賞者をいざなう。

しかし、「標題」は作品そのものではない。あたりまえのように存在するものの、それを単純に「固有名詞」のように言語の機能面で割り切るには、あまりにも人間の深層、すなわち生理的・文化的・社会的な問題と深くかわりすぎており、その影響力は甚大である^(註一)。

「標題」は「表題」と書かれることもあるが、両者に意味上の差はない。

辞書では「①書物の表紙にしるされた書物の名。外題。②演説・談話・

芸術作品・演劇などの題目。【広辞苑】」のように書かれ、英語では、

Title, Label, Subject などがあてられる。また、作品の内容をさらに細分化す

るために使用される「見出し」は Title、「目次」は Index of title が宛てられ、

さらに「内容」の意味を持つ Contents も目次と同義に使用されることが多

く、それぞれ微妙にニュアンスを異にしつつも、近接した類縁関係のある用

語群となっている。

一方、日本や中国の古典籍の世界でも、章立ての見出しや部立てを明示するための語句も「標題」と呼称することが一般的であった。たとえば、「勸学院の雀は蒙求をさえずる」という諺で著名な唐の李瀚撰の『蒙求』は、宋代に入り『標題徐狀元補注蒙求』という注釈書が近代に至るまで流布し

たが、ここでの「標題」は、人物の故事が四言の詩に仕立てられたものが見出しと兼ねられていたのを呼称するものである。

室町時代の注釈書、『蒙求抄』（清原宣賢）は、「標」を「標ハ木ノ梢也。本ノ叢ノ中カラ拔出タ心ソ」、「題」を「題ハヒタヒ也。ヒタイノヤウニ指出タ心ソ。」と説明し、木の梢のように、ほんの一部分を示すことでその内容を示す意味で解釈している。内容物の表象を担う機能を持った言葉であることが古くから認識されていたわけである。

この理解に立てば、「標題」の概念は作品の外側を覆いくるむかのように名付けられたものだけでなく、見出しのための「目次標題」や、部類・部立てのための「部類標題」のように、作品内部を構造的に分類するための指標としても「標題」の語が使用されていたことがわかる。その意味で、本研究で扱う「標題」とは、日本・中国・英語の言語相による差異はなく、「タイトル」「もののなまえ」といった類語も、同縁の関係にあるといえる。

《四》和漢古典籍における「標題文芸」へのアプローチ

「標題」に関する研究を文学研究の中に位置づけるならば、それは作品論にあてはまる。そして、その特質は、これまでに述べた「標題」の特質からかんがみて、作品の根幹に関わる、もっとも重要な部分を扱う研究ともいえる。

本研究では、作品全体に付される標題を、大きく二つに分けて考えている。その一つは、「作品標題」と呼称するもので、書名・題名などがこれにあたる。またひとつは、内容や作品構成・構造にかかわる部分を象徴する標題をさし、これは「目次標題」と「部類標題」とに分かれる。「標題文芸」というコンセプトの下では、「作品標題」と「目次標題」における意匠

の追究や命名原理の考察、時間的・分野的枠組みを広く採っての分析などが主な研究対象となるだろう。

国文学（日本文学）研究において、「標題」の重要性について意識されることは、ほとんどなかった。ましてや、多量に存在する典籍群を対象に、総体的に「標題」についての問題に取り組み試みは、皆無に等しい。しかし、世の中には、すぐれた意匠を凝らした「標題」を有する作品は少なくなく、その影響・継承関係などの点でも、無視できない諸現象が確認でき、その重要性はもっと追究されてしかるべきだろう。

本研究の課題名を、「和漢古典籍における「標題文芸」の基礎的研究」と立てたのは、「標題」の意匠についての評価や故実の言説が、比較的体系的に取材可能なこと、「標題」自体が独立した作品も通行していたことなど、文化的継承性・表現技術・評価言説などの諸点で、現代を再照射可能な典型事例の分析とモデルの構築が期待されるからである。

現代日本においては、古典と現代の乖離、すなわち「古典ばなれ」が喧伝されて久しいが、本研究において、つとめて意識的に現代の事例も採り上げるようにしているのは、そうした危機意識を常に念頭に置いているからでもある。

また、具体的な分析作業に情報処理技術を応用しての分析と処理は不可欠である。この方面では比較的に利用しやすい情報資源やツールも整いつつある。

そこで、これまでの研究の総括をかねて、情報処理技術と親和性の高い事例を中心に採り上げてみたい。

《五》「書名標題」の分析

「一」「書名標題」の総体

『国書総目録』に付される「分類」の立項方針では、書名等から明らかに内容がわかるために分類を省略している場合があるように、和漢古典籍には、その書名標題に使用される語句が指標となっており、当該作品の分野や特質、あるいは影響・継承関係が読みとれることが多い。したがって、書名標題に出現する文字や語句の出現頻度や分布状況を分析すれば、そこからさまざまなことが読み取れるはずである。

分析対象となる和漢古典学と関係の深い書名標題を一括して扱える電子データの入手先には、たとえば次のようなデータがある。一部に登録が必須なものもあるが、無料で利用できるものを採りあげて紹介する。

まず、近世以前の日本書の総合カタログといえる『国書基本データベース』（国文学研究資料館：<http://www.nijl.ac.jp/>）がある。このデータベースは、検索結果の表示が三千件に制限されているため、分析のために利用するには、「よみ」の前方一致で「あくん」（件数が多い場合は「あくん」）までの検索を繰り返して、その都度データを保存するという繰り返し作業が必要になる。

なお、『国書総目録』の性質上、和刻本などのような準漢籍、文書類、貼り込み帳の類はカタログに採られていない。そのため、日本に残存する書名標題の総体における『国書総目録』の割合は、限られた分野のものとなっていることに留意しておく必要がある。

それを補うものとしては、いわゆる漢籍、すなわち近世以前の中国書がある。『中国叢書総録』の電子データは、本研究の遂行に際して相当に有効と思われるが未見である。そのため、次善の策としては、正史の藝文・経籍志類を集積・抽出する方法も有効だろう。北海道漢籍データベースの正史芸文志・経籍志テキストシリーズ（<http://www.cione.ne.jp/kansei/china.html>）

がある。すべて S-JIS コードで作成されているので、データの加工・処理は行いやすいが、データの性質上、JIS 第一・第二水準を超える範囲の文字種はいわゆるゲタ文字で扱われる。字種の拡張を望みたいところ。

また、仏教書では SAT による「大正新脩大藏經テキストデータベース」(<http://www.i.u-tokyo.ac.jp/~sat/japan/>) なども公開されているので、そこから書名情報を抽出することが可能である。

現状では、いずれのデータについても、検索・抽出処理によるデータ加工が必要で、しかもすべての書名標題を蒐集することは不可能である。しかし、それでも、情報化の進展によって、従来とは比較にならない規模のデータを、分析作業の俎上に載せることができるようになってくることは確かだろう。

【二】「書名標題」のありよう

書名標題の総体に対して、形態素が共通する字句を任意の文字列数ごとに抽出する方法としては、n-gram 統計法に代表される、定型性評価を可能とする共起頻度分析ツール群の利用が有効と考えられる。

たとえば、情報理論の創始者として知られるクロード・エルウッド・シャノン(Claude Elwood Shannon 1916-2001)の創出になる言語モデルをプログラムに応用した n-gram 統計法では、特定の言語から、文字の並びを一文(グラム)、二グラム、三グラム……と取り出して、その種類や出現確率を計算して、その言語の特質を分析するものである。

したがって、書名標題の総体に対して一三グラム程度で、書名に使用される文字形態素を抽出するという手法で分析を行えば、書名標題を指標とする壮大な相関関係を求めることが理論上は可能となる。

同様の処理に適したツールには、ほかに接尾辞に着目した索引を生成し

て高速検索を行う Suffix Array などが公開されているなど、次第にその数を増やしつつあるが、これらの処理プログラムによって検出されたデータは、いずれも膨大な検索結果が吐き出されることとなり、人の目で有意のデータを分析・抽出するには不向きな面もある。

しかも、書名標題の総体を求めるためには、これらのツール群では処理できない課題が残される。

まず第一に、使用文字種の問題がある。先述の電子データ群から、書名を抽出しただけでは分析可能な状態にはなっておらず、書名の抽出作業、字体の包摂作業が必要となる。また、テキスト処理の容易な JIS X 208 に限定した形でもある程度の傾向は見渡せようが、たとえば『国書基本データベース』では、字種の拡張された UCS30 によっても四〇〇字弱の外字が発生するなど、使用漢字字種の不足を補わねばならない問題もあるからである。現在、この問題の解決に向けてデータを整備中だが、たとえそれを解決したとしても、得られた結果は、膨大なものとなることが予想され、その成果をいかにして第三者に利用可能な形に表現し、納得させる分析が可能となるか、これが第二の課題となる。

さらに、書名表記の揺れをどのように解決するかという問題もある。たとえば、一冊の古典籍に現れる書名タイトルには、「外題」「内題」「柱題」「目録題」などさまざまなものがある。

この点についてはすでに入口に考察があるが^{〔注三〕}、ことは『日本霊異記』の正称が『日本国現報善惡霊異記』であるような次元にとどまらない。『好色一代男』の江戸版の外題が『世之介／好色一代男』と『好色一代男』の巻によって交互に現れるなど、厳密な標本を集めようとしても、どうしてもある程度は目をつぶらなければならない所もある。これが第三の問題である。

これらの点は今後も完全に解決する目処は立ちがたい。ある程度は、割り切った考え方をし、それぞれの典型例を抽出した上で、精細な分析を施し、全体像を仮説として提示することが現実的だろう。

〔三〕文字数の文化史

総体としての基礎データの様相は上述のとおりである。しかし、それでも分野や観点を絞り込んでいけば、ある程度は確度の高い結果は得られる。たとえば、書名標題の特質の内、古くから言われていることに、歌舞伎などの芝居の外題が七・五・三の奇数字数を尊ぶということがある。奇数が陽の数であり、俗に言う「ゲンかつぎ」になるからである。

この点についても入口が『国書基本データベース』を使用して検証を試みた。そして、

一目瞭然、浄瑠璃・脚本といった興行に関わる演劇関係の外題は圧倒的に奇数字の題が多いことがわかる。

対照的に浮世草子・読本・滑稽本・人情本といった小説類は偶数と奇数の比がほとんど変わらないと言っている。その中で黄表紙が奇数字文字を多くとっているのは芝居との関係を考える上で注目すべき点であろうか。

という結果を得ている^{〔注三〕}。芝居に関わる外題の場合、興行の看板に掲げられることが多く、小説などの出版形態によるものと表記の差を生んだと推測する。こうした事情を勘案すれば、前項で述べた書籍内部の表記の差はある程度捨象して考えることができ、確度の高い分析結果を得られたといってもよからう。また、時代を区切ってみれば、元禄が一つの境目となる傾向がうかがえるということから、その背後に何があったのか、文化社会学的・比較文化的観点からも興味は尽きない。

また、字数の継承性は書名以外にも見られる。たとえば、旧薬時代（漢

方薬全盛時代）の薬品名についての調査によれば、「安産万全十丸」「金明十丸」「葛根十湯」のように、接尾辞との組み合わせで三字型・五字型が九三・四%を占めるとのこと。

さらに、化学の分野では、成分に従った系統的命名法が適用されており、それにともない字数も一定の字数範囲に固まる傾向にある。しかし、その一方で、化学医薬の領域では、類似する名称が医療事故を招来する原因となっていることも、問題点として指摘されており、命名行為の重要性を垣間見せてくれている^{〔注四〕}。

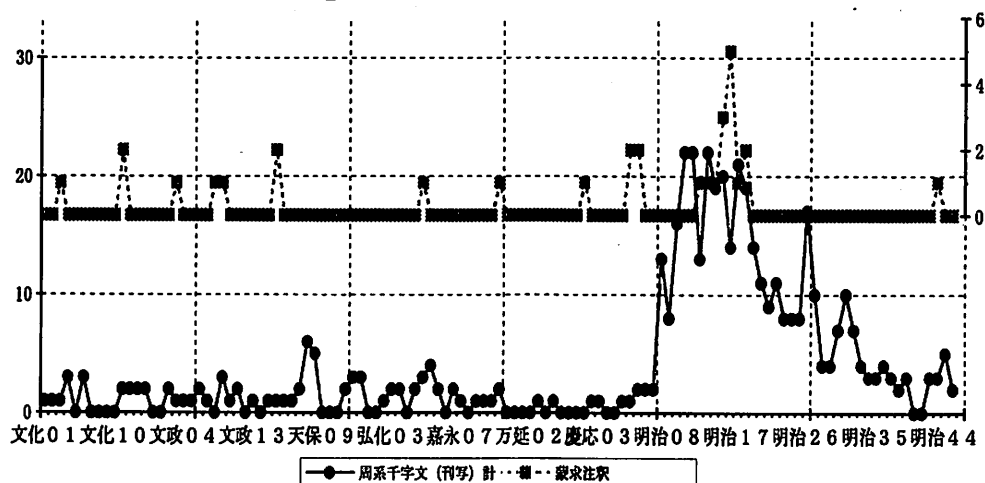
〔四〕書名標題の形態素

画期的作品が登場すると、それをもてやはず機運が嵩じて、時には現実と架空の教会が曖昧となるかのような現象が、享受史上に立ち現れることがある。たとえば、作者をことさらに神格化したり、作品を聖典化^{（カノン）}するなどといった事象は、その一端だろう。

日本では、柿本人麻呂や松尾芭蕉などが神としても祀られたことはよく知られるが、海外でも、シャーロキアンという呼称で知られるコナン・ドイルのシャーロックホームズシリーズの愛好家たちが、作品上の架空の舞台であったベーカー街を実在のものとしてしまったり、紫式部の『源氏物語』やシェークスピア^{〔注五〕}のように、すぐれた作品を残したが故に、その作者が人間のことをすべて知悉しているかのごとき評価が生まれたりすることもある。

また、その意匠にならって、書名にその名称を使用する続撰書が陸続とあらわれることがある。これには、先行書名をそのまま継承するものや、その性質を表現する語句の形態素を継承するものなどがあり、近接した時期にあたかも一大ブームを将来したかのような出現状況を呈することもある。

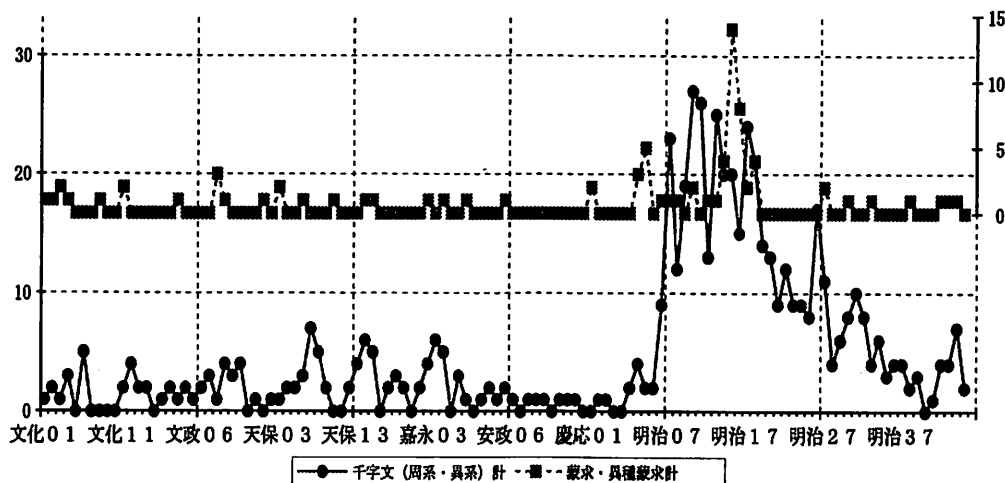
周系『千字文』と『蒙求』注釈書の輩出状況



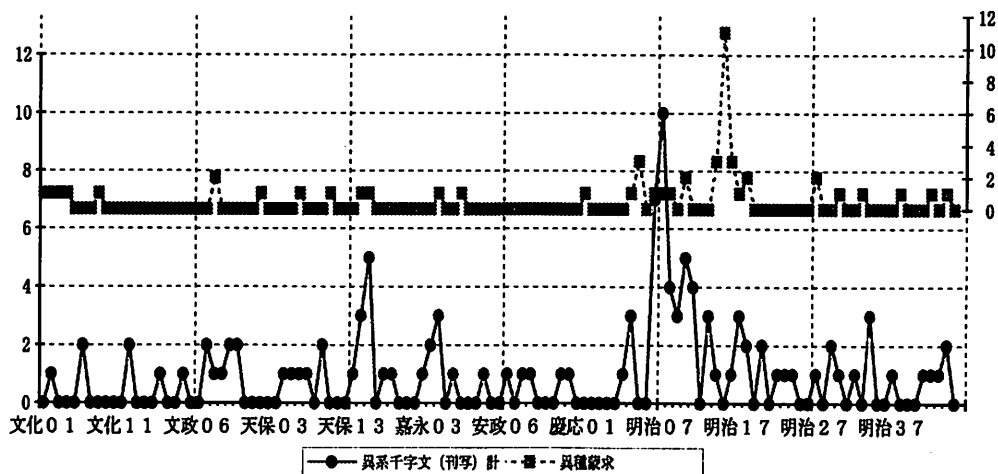
たとえば、漢学の基礎教材である梁の周興嗣『千字文』や唐の李瀚撰の『蒙求』については、テキスト・注釈書だけでなく、その意匠にならった続

撰書も、幕末から明治十年代にかけて爆発的なブームともいえるほどに集中して輩出した様相^{(注七)(注八)}が確認できる。

『千字文』群と『蒙求』群の輩出状況



異系『千字文』と異種『蒙求』の輩出状況



内訳・詳細は先行研究^{〔まじ〕}および既稿^{〔まじ〕}に委ねるが、グラフからは、『蒙求』群の発生件数よりも、『千字文』群の発生件数の方が多く、両書群とも明治期に顕著な発生の増加を見るが、『千字文』群の方が流行の開始が早く、終息も遅いといった傾向が読み取れるのは、『千字文』と『蒙求』との対象年齢が異なっていたという事情による。

さらに、書名標題の継承性には、この『統蒙求』『本朝蒙求』のように、先行書名をそのまま引き継ぐもののほかに、『〇〇抄』『〇〇物語』のように、その典籍の性質を表現する意匠が語句の形態素として使用され、引き継がれるものもある。

こうした現象についての、本プロジェクトにおける報告では、安保博史による「：草」型という形態素を持つ俳書についての分析がある。

すなわち、『犬子集』撰集時に、書名に「集」を付することが、俳諧を和歌集や連歌集と同列に扱う不遜なことだということで「犬子草」とするべきだという非難があったことが紹介され、その折は、書名を『犬子集』に落ち着いたものの、その後も謙称としての「：草」型の書名は、俳諧では数多く引き継がれていた。そこには、『徒然草』を意識することによる命名意識がうかがえ、自らの学芸のステイタスを称揚せしめる序文が行われるという現象が確認できるといえる。これなどは、書名標題に付される形態素にも複雑な文化的背景が存在することを端的に示す事例といえよう。

〔五〕書名標題の命名原理

標題についての分析を深めるためには、多量なサンプルを調査すると同時に、個々の事例についての分析を行うことも必要となる。そして、その前提として、分析対象となる作品の特質について十分知悉していることが求められる。たとえば、渡辺信和が御伽草子九〇一タイトルの命名原理につ

いての考察を試み、以下の分類を得たのは^{〔まじ〕}、その一例といえよう。
(1) 標題の中に含まれる形態要素と形式要素

〔a〕形態要素

- ① 絵・絵巻・絵詞・画
- ② 草紙・草子・双子・さうし
- ③ 巻物など

〔b〕形式要素

- ① 物語
- ② 記
- ③ 論
- ④ その他

〔c〕准形式要素

- ① 縁起
- ② 本地
- ③ 由来・因縁・歌合など

(2) 命名のあり方

〔a〕主人公（人間など）を標題とした例

- ① 名
- ② 職掌（「海女物語」など）
- ③ 属性（「小男の草子」など）

〔b〕退治されるものの名前

〔c〕主人公でない登場人物

- ① 主人公の家族の名など
- ② それ以外の登場人物

〔d〕キーワードとなるものの名前（姥皮など）

〔e〕対応関係を持つ標題

- ① 主人公の男女、対立する者（「楊貴妃物語」と「玄宗皇帝」など）
- ② 人間と神（「菅丞相」と「天神の本地」など）

〔f〕結果として顕現したものを示す標題（榛名山御本地など）

〔g〕謡曲・幸若・説教などと関わる御伽草子の標題

〔h〕改作物語の標題

〔i〕擬人化された作品の標題

〔j〕その他

- ① 擬人化された作品の標題（「魚虫歌合」など）
- ② 軍記型標題

〔j〕その他

- ① 時節
- ② 著者
- ③ 行為
- ③ 場所
- ④ 主題の意味（「そっくり物語」など）

挙例の分類は、御伽草子という特定ジャンルに収束しきれない、普遍的な原理もうかがえる。今後は、ジャンルを超えた、多様な事例について、同様の手法による検証も必要となろう。

《六》「部類標題」の継承性について

ものごとを「類」という概念で整理・体系化することは、人間の認知活動において自然に行われることである。「標題」を与える行為は、分類意識と不可分に結びつき、とりわけ「目次標題」や「部類標題」には、そうした傾向が顕著に現れる。

和漢古典籍の類聚編纂物には、物事を「類」（近似するもの）概念で集積し、整理・体系化を施されたものがきわめて多い。大げさな言い方をすれば、その認識は世界内存在全てを志向し、階層的に表現された知識体系が、それ自体がミクロコスモスを形成する「分類概念語彙」によって（当時の表現を借りるならば、「部類」のための「標題」、すなわち「部類標題」）、統御されていたといっても過言ではない。

こうした知識構造を表現し、処理するための考え方として、情報学と関わる分野を中心に、「オントロジ」という考え方の枠組みが情報学の深化とともに注目を集めつつある。

哲学术語「存在論」に由来する「オントロジ」は、情報学においては「概念間の関係の明確な定義の集まり」として、情報リソースから独立した上位層に位置付けられる。情報を意味的に組織化、検索、ナビゲートするための新しいパラダイムとして、認知科学・知識工学・図書館情報学などにおいて特に注目を集め、急速に研究が進展すると同時に、その概念も拡がり続けている。

しかしこれはまた、有史以来、日本や中国で幾度も編纂された、類概念（分類概念語彙）によってまとめられた古典的な辞書・辞典（＝類書）が、きわめて継承性の強い、良質な「オントロジ（知識概念木）」の宝庫となっているように、伝統的な発想にのっとった書物や記録の世界に最も多くの情報（データやノウハウ）が残されているものともいえよう。

既稿^{〔三〕}において、試みに中国における類聚編纂物七種と日本の『和漢朗詠集』と現代の語彙資料である『分類語彙表』の中から、漢字列文字列のみを抽出し、共通する語彙を各典籍ごとに個別に比較してみたが、それだけでも、さまざまなことが分かってくる。

まず第一に、典籍間の親疎の度合いが、語彙の一致率比較によりある程度判明することである。たとえば、『李嶠百廿詠』『芸文類聚』『初学記』『事類賦』の四種は、いずれも、平安期以前の漢詩文の表現における影響の指摘される典籍群だが、分類用概念語彙の一致率から見ると、きわめて類縁性の高い典籍群として位置づけられるということが言える^{〔三三〕}。

次に、分類用概念語彙に使用される語句は、少ないものでもその四分の一が、多いものではその半数が現代日本でも使用されているものであるということである。

さらに、一致する語彙が、自然景物・年中行事・人事関係の語彙に集中しているということもあげられよう。このことは、連歌に使用される語彙が自然言語ときわめて親近性の高いものであるという藤原鎮男・立川美彦の報告^{〔三三〕}を補証するものとなっており、古典語彙と現代の語彙をシームレスに接合可能であることを示唆するものとなっている。

《七》「独立標題」の影響―『千字文』を例として―

「一」「独立標題」ということ

「目次標題」と関連の深いものとして、「標題」自体が文芸作品として独立して享受されることを念頭に作成された一群の作品がある。かりにこれを「独立標題」と呼ぶことにしておこう。

中国では、古いものでは『千字文』『蒙求』など、四言詩の対句体裁を持ったものが行われ、「頌文」すなわち、唱えることを前提に作成されることが多い。

この種のものには、言語遊技的な面から見ても高度な意匠が施されたものも少なくない。また、ほかにも問答型のものや、『三字経』のように、暗誦させることにより効率的な知識伝達をはかることを目的として作られたものもあり、そのバリエーションは相当に広いといえよう。

日本でも同様の意匠で作成された作品が多く残されているが、日本独自の文芸形式である和歌や俳諧、さらに言うならば現代でも盛んに作られる「標語」の世界も、広義には同種の意匠の上に作成されたと考えてもよからう。その意味で、まさに「標題文芸」と名付けるに相応しい作品群である。

こうした作品群が一般的な作品以上に大きな享受層を確保し続けてきたことは疑いなく、その影響は根底的な次元から広い分野に及んでいたと推測される。

たとえば、『千字文』は、『古事記』によれば、応神天皇（二七〇～三一〇）の時、和邇吉師が、『論語』とともに百済から伝えられた日本伝存の最古参の漢籍とされるが、奈良朝官人による手習いの跡が木簡に残されているように、上代文学の頃から深い影響がある。

では、具体的には、どういう文字が、あるいはこういった表現が基礎教養として刷り込まれ、使われ続けてきたのか。さらに言えば、こうした知識や

表現レベルでの基層を形成するテキスト群が、他のテキストとどのような関連性を持つのか、という観点で検証を進めれば、作者の位相を反映して、その知識の枠組みの差異を浮き彫りにすることが可能となるのではなかろうか。

その仮説の検証のためには、電子化テキストを利用した分析が最も有効で、かつ客観的な結果を提示することが可能ではあるが、実際に検証作業を行うとなると、事はそう簡単ではない。以下に、その手続きの一端を示そう。

「二」「千字文」二説

『千字文』は重複のない千字の漢字で構成された四言詩で、漢字文化圏の諸国で広く用いられ、日本でも明治半ばまで知識教養の根幹を担っていた。

その成立については、二説がある。一つは、梁の武帝が王子たちに書を習わせるため、晋の王羲之（三二一～三七九？）の筆跡中から、重複のない一千字の模本を作らせたが、次第不順の一字ずつの紙片であった。そこで武帝は周興嗣（四七〇？～五二一）に、これを韻文に仕立てることを命じた。周興嗣は一晚で整然たる四言詩を作り上げたが、その苦心のために総白髪になってしまったというものである。

また一つは、『千字文』の祖型は、魏の鐘繇（？～二三〇）が作り、王羲之が書いたとされる『古千字文』に対して、周興嗣が同じ韻字を同じ順序に用いて詩を作る次韻を以て、新たな『千字文』を作り上げたとも伝えられる説である。六世紀後半の人で日本においても受容された李邕注の序文にも鐘繇を「千字文」原作者とする説が記され、中国でも宋代には相当広まっていた^{〔注十五〕}。

明の王肯堂（一六世紀の人）の『鬱岡齋墨妙』（巻四）という法帖に刻される鐘繇真跡をめぐることは、書写者の真贋はさておき、はたしてそれが鐘繇作の『千字文』のものかについても真偽の議論が分かれるところである。尾形裕康はこれを『古千字文』と呼び、全文と異同を紹介するが、その文句は、周興嗣次韻と題される一般的な『千字文』が、

天地玄黄 宇宙洪荒

寒来暑往 秋收冬藏

から始まるのに対して、『古千字文』は、

二儀日月 雲露嚴霜

夫貞婦絜 君聖臣良

と始まるように、字句のならばは通行の『千字文』と異なるものの、使用される文字の大概は一致する。応神天皇在世時の渡来が真実ならば、最初に渡来した『千字文』は鐘繇作のものとなるが、出土する奈良朝期の木簡類に記されるものは周興嗣のものである。両者に使用する字の重なりや、鐘繇作の伝存の可能性の分析のためには、上代の人々による書記言語の基層にどのくらい『千字文』が反映していたか、出現頻度、表現引用などの観点による詳細な分析を行う必要がある。

【三】『千字文』は何字ある？

『千字文』が重複のない千字の漢字で構成されたものとはいえ、そこに用いられる字は、現在通行の字体とは異なる。現代日本の社会生活で基本的に使用される漢字を反映した文字コードの基本セットであるJIS第一・第二水準（JIS X 208）では『千字文』をすべての文字を入力することができないのは、日本と中国では文字文化環境が質的に異なるのではないかということとを予想させる。

しかし、現在では、ユニコードの規格の採択と普及により通常的环境下でも使用可能となったおかげで、Unicodeのレベルでも『千字文』の全文入力果たせるようになり、分析の組上に乗せることが可能となってきた。

ところが、千年以上にもわたって漢字文化を伝承する過程で、『千字文』収載字には異体字、さらに皇帝・王などの尊貴な人の実名を生存中は呼ぶことをはばかって、代替するために使用される避諱字も発生するようになってきているのである（その状況については小池和夫^{〔註13〕}に詳細な報告がある）。

たとえば、周興嗣『千字文』の第二十六句目「周発殷湯」は、

周

発：發（異体字）

殷：商（避諱）

湯

第一〇二番目の「発」字は、「」字の異体字関係が発生し、第一〇三番目の「殷」字には「商」字を避諱字として使用された本文も流布している。そのため、避諱字の異体字とあいまって、詩中に重複字も発生するに至っている。宋・呉枋『宜齋野乘』には「千字文字重複」として記事を収める^{〔註14〕}このような現象は、早くから気づかれていたらしい。しかし、結局、現代日本における文字環境では、『千字文』は、異体字・避諱字の派生によって一三八〇字の文字セットを包含し、その内三十二字に重複が存在するテキストとならざるを得ないのである（内訳は末尾資料参照のこと）。

【四】『風土記』の中の『千字文』

試みに『風土記』中に『千字文』に使用される字がどれだけ出現するかを検証してみよう。

『千字文』というテキストは、書の手本として流布してもいたため、字

体の変化がどれだけ出現したかを比較的把握しやすいが、『風土記』の場合は、転写が重ねられたものしか存在せず、原本・字体の変化をさかのぼって

確認すること自体がもとより不可能である。

その意味で、『千字文』所収の各字に対して、異体字類を含んだ文字セットを基礎資料として用字の比較を行うことは、まさに字形の揺れや字体のゆらぎを含む文字も、使用された可能性のあるものとして、比較的漏れのない調査方法となっているといえよう。

今回検証に用いたものは、岩波古典大系を電子化した古典本文データベースである。検証対象となるものは、『風土記』の康熙字典体を用いて書かれた原文表記の部分であるが、事前に常用漢字内の字についてはすべてそれに改め、概念上に存在する漢字の「字体」自体を比較することとした。その方法を採用しても異体字の揺れは吸収できることは先述の通りであるが、もとより、『千字文』を一〇〇〇字の文字セットを有するものとして認定することも不可能である。しかし、字形にまでこだわった完全な比較方法には限界がある以上、致し方のない所だろう。

	一致字数	全字数	一致率	一致字種	全字種	一致率
常陸国風土記	4,981	7,483	67%	556	1,272	44%
出雲国風土記	10,554	17,299	61%	482	1,154	42%
播磨国風土記	8,177	11,759	70%	499	1,100	45%
豊後国風土記	1,548	2,306	67%	289	567	51%
肥前国風土記	2,943	4,340	68%	413	839	49%
総計	28,203	43,187		2,239	4,932	
平均	5,641	8,637	66%	448	986	46%

〔図②〕『風土記』中の『千字文』漢字

このような状況を前提として、実際に『風土記』と『千字文』を照らし合わせて検証して得た結果が〔図②〕である。

この結果を見ると、各『風土記』には最大一〇％程度の使用字の差異が

あることがわかる。詳細な分析のためには、さらに補証を積み重ねることが必要だが、こうした手法を他の作品に及ぼして、知識基盤を観点から文化史を読み解くことも可能であろう。さらに後考を期したい。

「八」まとめにかえて

以上、「標題」という観点から文学を読み解くための方法について、いくつかの観点による大綱を述べた。「いかにデータを作成するか」ということへ腐心する状況から、「多量の情報をいかに組織化し」、「既存の情報からいかに有用な情報を汲み取るか」というパラダイムへの変化の中、国文学研究も、新たな研究段階を迎えようとしていることを感じているのは稿者のみにとどまるまい。

※※注※※

〔注一〕佐々木健一『タイトルの魔力―作品・人名・商品のなまえ学―』（中公新書一六一三、中央公論社、二〇〇一・一一・二五）、本稿の冒頭文は本書の表紙をアレンジした。

〔注二〕相田満「『標題』のさまさま―現代と脱領域的な視点から―」（『標題文芸（巻）』、国文学研究資料館、二〇〇三・三）

〔注三〕入口敦志「題名の文字数」（『標題文芸（巻）』、国文学研究資料館、二〇〇三・三）

〔注四〕森岡健二・山口仲美『命名の言語学―ネーミングの諸相―』（一九八五・九、東海大学出版会）

〔注五〕厚生労働省「第十回厚生科学審議会議事録」（二〇〇〇・一二・八、http://www1.mhlw.go.jp/shingi/s0012/kyu/s1208-2_6.txt 二〇〇四・二・四参照）

〔注六〕「^{シイタスニア}舌氏^{アラユル}ハ凡ソ所有人類ノ事ヲ知リタレハ「人間万類ノ撮要録」へ人間万類ノ書ヲ一身に藏シタルユエニカク比象シテイフ」ト名ズクルモ可ナリ」(中村正直:訳『西国立志編』一・一一、求光閣、一八九九・一〇)

〔注七〕尾形裕康『近代日本における千字文型教科書の研究』(早稲田大学出版部、一九七八・三)

〔注八〕相田満「幕末・明治期の「蒙求」」(『国際日本文学研究集会会議録』一八、国文学研究資料館、一九九四・一一)

〔注九〕安保博史「俳書標題の意匠について―「…草」型標題を中心に―」(『標題文芸(巻)』、国文学研究資料館、二〇〇三・三)

〔注十〕渡辺信和「御伽草子の標題について(ノート)」(『標題文芸(巻)』、国文学研究資料館、二〇〇三・三)

〔注十一〕藤原鎮男・立川美彦「連歌の語彙にみる普遍性と個性性」(『国文学研究資料館紀要』二二、一九九六・三)

〔注十二〕小池和夫「千字文逍遙」(小宮山博史・府川充男・小池和夫『真性活字中毒者読本』、柏書房、二〇〇二・九)

〔注十三〕唐・李綽^{りしやく}『尚古故実』、唐・韋絢^{いげん}『劉賓客嘉話錄』

〔注十四〕UCS とは、工業・農業産品の規格の標準化を目的とする国際機関の ISO (国際標準化機構 [1947] : International Organization for Standardization) と

電気および電子技術分野の規格の標準化を目的とする国際機関で ISO 中の電気通信部門を担当する IEC (国際電気標準会議 [1908]、1987 以降 ISO) : International

Electrotechnical Commission) が共同で作成したものであるため、ISO/IEC 10646 と呼ばれる全世界の文字を包含する情報交換用の符号化文字集合。当初、独自の

構想と構造を持った符号化文字集合であったが、同じ目的を持つ情報処理用の文字集合である Unicode (ユニコード) と似た規格が並立することを避けるため、

Unicode 側の仕様を軸に統合が行われ、出版されたものが UCS となっている。32 bit

の UCS (実装例なし) と 16 bit の UCS2 があり、UCS2 は実質的に Unicode そのものである。

日本では、ISO/IEC 10646-1 が JIS X 0221 国際符号化文字集合として JIS 規格化されており、その内訳は JIS X 0208:1980 (第一水準漢字集合 + 第二水準漢字集合) 六八七九字、1980 は制定年) と JIS X 0212:1990 Ⅱ JIS 補助漢字六〇六七字) が合わさったものといえる。

〔注十五〕『宋史』李至伝、釈文瑩^{おんえい}『玉壺清話』、王応麟^{ぎよつせいしん}『玉海』巻四五、敦煌本『雜抄』など。

〔注十六〕宋・吳枋『宜齋野乘』(『顧氏文房小説』第三冊) 六ウ

千字文字重複

千字文有女慕清潔又有執扇圓潔重兩潔字今宜改清潔為清貞庶不重複

※※付記※※

本稿は第十一回(二〇〇三年度)情報知識学会研究報告会「二〇〇三年五月二四日、於・国立情報学研究所」における研究報告および口頭発表の一部にもとづく。貴重なご助言を下さった藤原鎮男氏、研究遂行の過程で貴重な示唆・助言を与えて下さった石井行雄氏ならびに本プロジェクトの構成員各位に深謝申し上げます。

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
1	天	天	天					
2	地	地	地					
3	玄	玄	玄		元		避諱	
4	黄	黄	黄					
5	宇	宇	宇					
6	宙	宙	宙					
7	洪	洪	洪					
8	荒	荒	荒					
9	日	日	日					
10	月	月	月					
11	★	盈	盈					盈
12	★	晨	晨					
13	☆	辰	辰					
14	宿	宿	宿					
15	列	列	列					
16	張	張	張					
17	寒	寒	寒					
18	來	來	來					來徠
19	暑	暑	暑					
20	往	往	往					往
21	秋	秋	秋					穉穉
22	收	收	收					收
23	冬	冬	冬					
24	藏	藏	藏					藏旺
25	★	閏	閏					
26	余	余	余					餘
27	成	成	成					
28	歲	歲	歲					𪛗
29	律	律	律					
30	呂	呂	呂		召		書写字の差異	
31	調	調	調					
32	陽	陽	陽					阳陟
33	雲	雲	雲					
34	騰	騰	騰					
35	致	致	致					
36	雨	雨	雨					
37	露	露	露					
38	結	結	結					
39	為	為	為					爲
40	霜	霜	霜					
41	金	金	金					
42	生	生	生					
43	麗	麗	麗					
44	水	水	水					
45	玉	玉	玉					
46	出	出	出					
47	★	崑	崑					
48	★	岡	岡					崗
49	劍	劍	劍					劍劒劒劒劒
50	号	号	号					號
51	巨	巨	巨					
52	★	闕	闕					
53	珠	珠	珠					
54	称	称	称					稱稱
55	夜	夜	夜					
56	光	光	光					茷尢
57	果	果	果		菓		元来區別無し	
58	珍	珍	珍					玕
59	☆	李	李					
60	☆	奈	奈		柰		元来區別無し	柰
61	菜	菜	菜					
62	重	重	重					
63	★	芥	芥					
64	★	薺	薺					
65	海	海	海					
66	★	鹹	鹹					鹹

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
67	河	河	河					
68	淡	淡	淡					
69	★	鱗	鱗					
70	潜	潜	潜					潛潛
71	羽	羽	羽					
72	童	翔	翔					
73	☆	童	童					龍龔
74	師	師	師					
75	火	火	火					伙
76	帝	帝	帝					
77	鳥	鳥	鳥					
78	官	官	官					
79	人	人	人					
80	皇	皇	皇					
81	始	始	始					始亂
82	制	制	制					
83	文	文	文					
84	字	字	字					
85	☆	乃	乃					
86	服	服	服					
87	衣	衣	衣					
88	裳	裳	裳					
89	推	推	推					
90	位	位	位					
91	讓	讓	讓		遜		避諱（通用）	讓
92	国	国	国					圀國圀
93	有	有	有					
94	虞	虞	虞					
95	陶	陶	陶					
96	唐	唐	唐					
97	弔	弔	弔		吊		元来區別無し	
98	民	民	民					
99	伐	伐	伐					伐衛
100	罪	罪	罪					
101	周	周	周					
102	堯	堯	堯					發
103	★	殷	殷		商		避諱	
104	湯	湯	湯					
105	★	坐	坐					
106	朝	朝	朝					
107	問	問	問					
108	道	道	道					循循導
109	垂	垂	垂					垂
110	★	拱	拱					
111	平	平	平					
112	章	章	章					
113	愛	愛	愛					
114	育	育	育					毓
115	☆	黎	黎					
116	首	首	首					
117	臣	臣	臣					
118	伏	伏	伏					
119	★	戎	戎					
120	★	羌	羌					羌
121	★	遐	遐					
122	★	邇	邇					邇
123	壹	壹	壹					壹
124	体	体	体					躰體體
125	率	率	率					率
126	寶	寶	寶					
127	婦	婦	婦					歸販
128	王	王	王					
129	鳴	鳴	鳴					
130	☆	鳳	鳳					
131	在	在	在					
132	樹	樹	樹		竹		避諱	

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説1	異説2	備考	異体字一覧
133	白	白	白					
134	☆	駒	駒					
135	食	食	食					
136	場	場	場					場
137	化	化	化					
138	被	被	被					
139	草	草	草					
140	木	木	木					
141	頼	頼	頼					
142	及	及	及					
143	万	万	万					萬
144	方	方	方					
145	★	蓋	蓋					蓋蓋
146	此	此	此					
147	身	身	身					
148	髮	髮	髮					髮三
149	四	四	四					
150	大	大	大					
151	五	五	五					
152	常	常	常					
153	恭	恭	恭					
154	☆	惟	惟					
155	☆	鞠	鞠					
156	養	養	養					狼
157	★	豈	豈					
158	敢	敢	敢					
159	★	毀	毀					
160	傷	傷	傷					
161	女	女	女					
162	慕	慕	慕					
163	貞	貞	貞					
164	★	★	絮	7D5C	潔		避諱 「清潔」の場合「潔」 字重複	
165	男	男	男					偶
166	効	効	効					効
167	才	才	才					
168	良	良	良					
169	知	知	知					
170	過	過	過					
171	必	必	必					
172	改	改	改					
173	得	得	得					
174	能	能	能					
175	★	莫	莫					
176	忘	忘	忘					
177	★	罔	罔		网			
178	談	談	談					
179	彼	彼	彼					
180	短	短	短					
181	★	靡	靡					
182	★	恃	恃					
183	己	己	己					
184	長	長	長					長尻
185	信	信	信					訟
186	使	使	使					
187	可	可	可					
188	覆	覆	覆					
189	器	器	器					器
190	欲	欲	欲					
191	難	難	難					
192	量	量	量					
193	墨	墨	墨					
194	悲	悲	悲					
195	糸	糸	糸					絲
196	染	染	染					
197	詩	詩	詩					

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
198	★	讀	讀					讀
199	★	羔	羔					
200	羊	羊	羊					
201	景	景	景					
202	行	行	行					
203	維	維	維					
204	賢	賢	賢					賢
205	克	克	克					
206	念	念	念					
207	作	作	作					做
208	聖	聖	聖					聖
209	德	德	德					德
210	建	建	建					
211	名	名	名					
212	立	立	立					
213	形	形	形					
214	端	端	端					
215	表	表	表					
216	正	正	正					
217	空	空	空					
218	谷	谷	谷					
219	伝	伝	伝					傳
220	声	声	声					聲
221	虚	虚	虚					虎
222	堂	堂	堂					
223	習	習	習					
224	聴	聴	聴					聽
225	禍	禍	禍					
226	因	因	因					因
227	惡	惡	惡					惡
228	積	積	積					
229	福	福	福					富
230	縁	縁	縁					
231	善	善	善					善
232	慶	慶	慶					
233	尺	尺	尺					
234	★	壁	壁					
235	非	非	非					
236	宝	宝	宝					寶
237	寸	寸	寸					寶
238	陰	陰	陰					陰
239	是	是	是					是
240	競	競	競					
241	資	資	資					
242	父	父	父					
243	事	事	事					事
244	君	君	君					
245	★	曰	曰					
246	嚴	嚴	嚴					嚴
247	与	与	与					與
248	敬	敬	敬					
249	孝	孝	孝					
250	当	当	当					當
251	★	竭	竭					
252	力	力	力					
253	忠	忠	忠					
254	則	則	則					
255	尽	尽	尽					盡
256	命	命	命					
257	臨	臨	臨					
258	深	深	深					
259	履	履	履					
260	薄	薄	薄					
261	★	夙	夙					
262	興	興	興					
263	温	温	温					

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
264	★	清	清					
265	似	似	似					侶
266	☆	蘭	蘭					
267	★	斯	斯					
268	香	香	香					
269	如	如	如					
270	松	松	松					栢案松
271	☆	之	之					
272	盛	盛	盛					
273	川	川	川					
274	流	流	流					
275	不	不	不					
276	息	息	息					
277	★	淵	淵					淵淵困
278	澄	澄	澄					激
279	取	取	取					
280	映	映	映					映
281	容	容	容					
282	止	止	止					
283	若	若	若					
284	思	思	思					恩
285	言	言	言					
286	辭	辭	辭					辭辭辭
287	安	安	安					
288	定	定	定					
289	簫	簫	簫					
290	初	初	初					
291	誠	誠	誠					
292	美	美	美					
293	慎	慎	慎					慎
294	終	終	終					
295	宜	宜	宜					宐宜
296	令	令	令					
297	榮	榮	榮					榮
298	業	業	業					
299	所	所	所					
300	基	基	基					
301	★	藉	藉		籍		元来區別無し	
302	甚	甚	甚					
303	無	無	無					
304	★	竟	竟		罄		避諱	
305	学	学	学					學李敦
306	優	優	優					
307	登	登	登					僊
308	仕	仕	仕					
309	攝	攝	攝					攝
310	職	職	職					職戔
311	從	從	從					从從
312	政	政	政					
313	存	存	存					
314	以	以	以					
315	甘	甘	甘					
316	★	棠	棠					
317	去	去	去					太
318	★	而	而					
319	益	益	益					
320	詠	詠	詠					咏
321	樂	樂	樂					樂
322	殊	殊	殊					
323	貴	貴	貴					
324	★	賤	賤					賤
325	礼	礼	礼					禮
326	別	別	別					
327	尊	尊	尊					
328	卑	卑	卑					
329	上	上	上					上

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
330	和	和	和					穌
331	下	下	下					𠂔
332	☆	睦	睦					
333	夫	夫	夫					
334	唱	唱	唱					詠
335	婦	婦	婦					
336	隨	隨	隨					隨
337	外	外	外					
338	受	受	受					
339	★	傳	傳					
340	訓	訓	訓					
341	入	入	入					
342	奉	奉	奉					
343	母	母	母					
344	儀	儀	儀					
345	諸	諸	諸					
346	★	姑	姑					
347	伯	伯	伯					
348	叔	叔	叔					
349	猶	猶	猶					犹
350	子	子	子					
351	比	比	比					𡵓
352	兒	兒	兒					兒
353	孔	孔	孔					
354	懷	懷	懷					懷喪
355	兄	兄	兄					
356	弟	弟	弟					
357	同	同	同					
358	氣	氣	氣					氣𩇛
359	連	連	連					
360	枝	枝	枝					
361	交	交	交					
362	友	友	友					
363	投	投	投					
364	分	分	分					
365	切	切	切					
366	磨	磨	磨					
367	★	箴	箴					
368	規	規	規					
369	仁	仁	仁					
370	慈	慈	慈					
371	隱	隱	隱					隱𠂔
372	★	惻	惻					
373	造	造	造					
374	次	次	次					
375	★	弗	弗					
376	離	離	離					
377	節	節	節					
378	義	義	義					
379	廉	廉	廉					
380	退	退	退					
381	★	顛	顛					顛
382	★	沛	沛					
383	★	匪	匪					
384	★	虧	虧					
385	性	性	性					
386	靜	靜	靜					靜
387	情	情	情					
388	逸	逸	逸					
389	心	心	心					𠂔
390	動	動	動					
391	神	神	神					
392	疲	疲	疲					
393	守	守	守					埶
394	真	真	真					眞
395	志	志	志					

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説1	異説2	備考	異体字一覧
396	満	満	満					満
397	逐	逐	逐					
398	物	物	物					
399	意	意	意					
400	移	移	移					
401	堅	堅	堅					
402	持	持	持					
403	雅	雅	雅					
404	操	操	操					捺
405	好	好	好					
406	爵	爵	爵					
407	自	自	自					
408	★	麤	麤					
409	都	都	都					
410	☆	邑	邑					
411	華	華	華					華
412	夏	夏	夏					夏
413	東	東	東					
414	西	西	西					
415	二	二	二					式
416	京	京	京					京
417	背	背	背					
418	★	芒	芒		邨		通用字	
419	面	面	面					面
420	★	洛	洛					
421	浮	浮	浮					
422	★	渭	渭					
423	扱	扱	扱					據
424	★	宮	宮	6D87				
425	殿	殿	殿					
426	盤	盤	盤		盤		古来通用字	
427	★	鬱	鬱					鬱
428	樓	樓	樓					樓
429	觀	觀	觀					觀
430	飛	飛	飛					
431	驚	驚	驚					
432	図	図	図					圖
433	写	写	写					寫
434	★	禽	禽					
435	獸	獸	獸					獸
436	画	画	画					畫
437	★	綵	綵					
438	仙	仙	仙					
439	靈	靈	靈					靈
440	丙	丙	丙					
441	舍	舍	舍					舍
442	傍	傍	傍					
443	啓	啓	啓					替
444	甲	甲	甲					
445	帳	帳	帳					賬
446	対	対	対					對
447	★	楹	楹					
448	★	肆	肆					
449	★	筵	筵					
450	設	設	設					
451	席	席	席					
452	鼓	鼓	鼓					鼓
453	★	瑟	瑟					
454	吹	吹	吹					
455	☆	笙	笙					
456	升	升	升				「昇」は千字文での使用例なし	
457	階	階	階					階
458	納	納	納					
459	陸	陸	陸					
460								

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
461	弁	弁	弁					辨辨辯
462	転		転					轉
463	疑	疑	疑					
464	星	星	星					𠂔
465	右	右	右					
466	通	通	通					
467	広	広	広					廣
468	内	内	内					
469	左	左	左					
470	達	達	達					達
471	承	承	承					
472	明	明	明					𠂔
473	既	既	既					
474	集	集	集					
475	墳	墳	墳					
476	典	典	典					
477	☆	亦	亦					
478	★	聚	聚					
479	群	群	群					羣
480	英	英	英					俛
481	杜	杜	杜					
482	稿	稿	稿					藁藁
483	★	鍾	鍾					
484	隸	隸	隸					隸
485	漆	漆	漆					柰
486	書	書	書					
487	壁	壁	壁					
488	経	経	経					經
489	府	府	府					
490	羅	羅	羅					
491	将	将	将					將
492	相	相	相					
493	路	路	路					
494	★	俠	俠					俠
495	★	槐	槐					
496	★	卿	卿					
497	戸	戸	戸					
498	封	封	封					
499	八	八	八					
500	県	県	県					縣
501	家	家	家					
502	給	給	給					
503	千	千	千					
504	兵	兵	兵					
505	高	高	高					
506	冠	冠	冠					
507	陪	陪	陪					
508	★	輦	輦					
509	驅	驅	驅					駟驅駟
510	★	殿	殿					
511	振	振	振					
512	★	纓	纓					
513	世	世	世					卅古
514	☆	祿	祿					祿
515	★	侈	侈					
516	富	富	富					富
517	車	車	車					
518	★	駕	駕					
519	肥	肥	肥					
520	輕	輕	輕					輕
521	策	策	策					箒
522	功	功	功					
523	茂	茂	茂					
524	実	実	実					實
525	★	勒	勒					
526	碑	碑	碑					

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説1	異説2	備考	異体字一覧
527	刻	刻	刻					
528	銘	銘	銘					
529	★	★	礪	78FB				
530	溪	溪	溪					溪谿礪嶠
531	☆	伊	伊					
532	★	尹	尹					
533	佐	佐	佐					
534	時	時	時					𡗗
535	阿	阿	阿					
536	衡	衡	衡					
537	★	奄	奄					
538	宅	宅	宅					
539	曲	曲	曲					
540	★	阜	阜					
541	微	微	微					
542	旦	旦	旦					
543	★	孰	孰					
544	營	營	營					營
545	★	桓	桓		齊		避諱による	
546	公	公	公					
547	☆	匡	匡		輔		避諱による	匡
548	合	合	合					
549	濟	濟	濟					濟
550	弱	弱	弱					
551	扶	扶	扶					
552	傾	傾	傾					
553	☆	綺	綺					
554	回	回	回					回
555	漢	漢	漢					
556	惠	惠	惠					惠
557	説	説	説					
558	感	感	感					
559	武	武	武					
560	丁	丁	丁					
561	俊	俊	俊					
562	★	乂	乂					
563	密	密	密					
564	★	勿	勿					
565	多	多	多					𡗗
566	士	士	士					
567	★	寔	寔					
568	寧	寧	寧					寔
569	☆	晉	晉					晉
570	楚	楚	楚					
571	更	更	更					
572	霸	霸	霸					霸
573	★	趙	趙					
574	★	魏	魏					
575	困	困	困					
576	橫	橫	橫					
577	仮	仮	仮					假
578	途	途	途					
579	滅	滅	滅					
580	★	★	𡗗	8662				
581	踐	踐	踐					踐
582	土	土	土					
583	会	会	会					會
584	盟	盟	盟					
585	何	何	何					
586	遵	遵	遵					
587	約	約	約					
588	法	法	法					灋金
589	★	韓	韓					
590	弊	弊	弊					
591	煩	煩	煩					
592	刑	刑	刑					

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
593	起	起	起					
594	★	翦	翦		剪		「剪」は旧版岩波文庫のみ	
595	★	頗	頗					
596	牧	牧	牧					
597	用	用	用					
598	軍	軍	軍					
599	最	最	最					取
600	精	精	精					
601	宣	宣	宣					
602	威	威	威					
603	☆	漠	漠					
604	★	馳	馳					
605	★	營	營					營
606	丹	丹	丹					
607	青	青	青					
608	九	九	九					
609	州	州	州					
610	★	禹	禹					
611	跡	跡	跡					蹟迹
612	百	百	百					
613	郡	郡	郡					
614	☆	秦	秦					
615	★	并	并					
616	岳	岳	岳					嶽
617	宗	宗	宗					
618	恒	恒	恒	秦		避諱による（通用）		恆
619	★	岱	岱					
620	禪	禪	禪					禪
621	主	主	主					
622	★	云	云					
623	亭	亭	亭					
624	★	雁	雁					鴈鴈
625	門	門	門					
626	紫	紫	紫					
627	塞	塞	塞					
628	鷄	鷄	鷄					鷄雞
629	田	田	田					
630	赤	赤	赤					
631	城	城	城					
632	昆	昆	昆					
633	池	池	池					
634	★	碣	碣					
635	石	石	石					
636	★	鉅	鉅					
637	野	野	野					埜埜
638	洞	洞	洞					
639	庭	庭	庭					
640	★	曠	曠					𡩇
641	遠	遠	遠					
642	綿	綿	綿				「綿」はきぬわた「棉」はきわた	緜
643	★	★	邈	9088				
644	巖	巖	巖					巖
645	★	岫	岫					
646	★	杳	杳					
647	★	冥	冥					
648	治	治	治					
649	本	本	本					𣎵
650	☆	於	於					
651	農	農	農					
652	務	務	務					
653	★	茲	茲					𦵏
654	稼	稼	稼					
655	★	穡	穡					
656	★	穡	穡					

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
657	★	倣	倣					
658	載	載	載					
659	南	南	南					
660	畝	畝	畝					畝畝畝
661	我	我	我					
662	芸	芸	芸					藝執
663	★	黍	黍					
664	★	稷	稷					
665	税	税	税					
666	熟	熟	熟					
667	貢	貢	貢					
668	新	新	新					
669	勸	勸	勸					勸
670	賞	賞	賞					
671	★	黜	黜					
672	★	陟	陟					陟
673	☆	孟	孟					
674	★	軻	軻					
675	☆	敦	敦					
676	素	素	素					
677	史	史	史					
678	魚	魚	魚					
679	★	秉	秉					
680	直	直	直					
681	庶	庶	庶					
682	幾	幾	幾					
683	中	中	中					
684	庸	庸	庸					
685	勞	勞	勞					勞
686	謙	謙	謙					
687	謹	謹	謹					
688	勅	勅	勅					敕
689	★	聆	聆					
690	音	音	音					
691	察	察	察					
692	理	理	理					
693	鑑	鑑	鑑					鑒鑒
694	★	貌	貌					兒
695	★	辨	辨					弁辨辯辯
696	色	色	色					
697	★	胎	胎					
698	★	厥	厥					
699	☆	嘉	嘉					
700	★	猷	猷					
701	勉	勉	勉					
702	★	其	其					丌
703	★	祗	祗					
704	植	植	植					
705	省	省	省					
706	★	躬	躬					躬
707	★	譏	譏					
708	★	誠	誠					
709	★	寵	寵					
710	增	增	增					
711	抗	抗	抗					
712	極	極	極					
713	★	殆	殆					
714	辱	辱	辱					
715	近	近	近					
716	恥	恥	恥					耻
717	林	林	林					
718	☆	皋	皋		皋		「皋」は智永本など、 「罌（エキ・ヤク）」 は別字	皋
719	幸	幸	幸					
720	即	即	即					卽

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覽
721	両	両	両					兩兩
722	★	疏	疏					
723	見	見	見					
724	機	機	機					
725	解	解	解					解
726	組	組	組					
727	★	誰	誰					
728	★	逼	逼					逼
729	索	索	索					
730	居	居	居					尻
731	閑	閑	閑					
732	処	処	処					處
733	沈	沈	沈					沉
734	黙	黙	黙					默
735	寂	寂	寂					
736	★	寥	寥					
737	求	求	求					
738	古	古	古					
739	尋	尋	尋					
740	論	論	論					
741	散	散	散					
742	處	處	處					
743	★	道	道					
744	☆	遙	遙					遙
745	☆	欣	欣					愜
746	奏	奏	奏					
747	累	累	累					縲
748	遣	遣	遣					
749	★	★	感	617C				
750	謝	謝	謝					
751	飲	飲	飲					歡
752	招	招	招					
753	★	渠	渠					
754	荷	荷	荷					
755	的	的	的					
756	歷	歷	歷					
757	園	園	園					
758	★	莽	莽					莽
759	抽	抽	抽					
760	条	条	条					條
761	★	枇	枇					
762	★	杷	杷					
763	晚	晚	晚					
764	☆	翠	翠					翠
765	☆	梧	梧					
766	☆	桐	桐					
767	早	早	早					
768	☆	彫	彫					
769	陳	陳	陳					
770	根	根	根					
771	委	委	委					
772	★	翳	翳					
773	落	落	落					
774	葉	葉	葉					
775	★	飄	飄					颿
776	★	★	颿	98BB				
777	遊	遊	遊					
778	★	獨	獨	9D7E				鵠
779	獨	獨	獨					獨
780	運	運	運					
781	☆	凌	凌					
782	摩	摩	摩					摩
783	★	絳	絳					
784	★	霄	霄					
785	★	耽	耽					耽
786	誦	誦	誦					讀

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
787	★市	𡗗	𡗗					
788	市	市	市					
789	★寓	寓	寓					廌
790	目	目	目					
791	★囊	囊	囊					囊
792	箱	箱	箱					
793	易	易	易					
794	★輶	輶	輶	8F36				輶
795	★攸	攸	攸					
796	★屬	屬	屬					
797	屬	屬	屬					屬
798	耳	耳	耳					
799	垣	垣	垣					
800	★牆	牆	牆					牆
801	具	具	具					
802	★膳	膳	膳					膳
803	★餐	餐	餐					飧
804	飯	飯	飯					
805	適	適	適					
806	口	口	口					
807	充	充	充					
808	腸	腸	腸					腸
809	飽	飽	飽					
810	★飫	飫	飫					
811	亨	亨	亨		烹			
812	宰	宰	宰					
813	飢	飢	飢					
814	★厭	厭	厭					
815	★糟	糟	糟					
816	★糠	糠	糠					
817	親	親	親					
818	★戚	戚	戚					
819	故	故	故					
820	旧	旧	旧					舊
821	老	老	老					
822	少	少	少					
823	異	異	異					
824	★糧	糧	糧					糧
825	★妾	妾	妾					
826	御	御	御					
827	績	績	績					
828	紡	紡	紡					
829	侍	侍	侍					
830	巾	巾	巾					
831	★帷	帷	帷					
832	房	房	房					
833	★紈	紈	紈	7D08	紈	團	避諱	
834	扇	扇	扇					
835	圓	圓	圓		員		通用字	圓
836	潔	潔	潔					潔
837	銀	銀	銀					
838	★燭	燭	燭					
839	★煒	煒	煒	7152				
840	★煌	煌	煌					
841	晷	晷	晷					晷
842	眠	眠	眠					
843	夕	夕	夕					
844	★寐	寐	寐					
845	☆藍	藍	藍					
846	★筍	筍	筍					筍
847	象	象	象					
848	床	床	床					
849	弦	弦	弦					
850	歌	歌	歌					
851	酒	酒	酒					
852	★譌	譌	譌					

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
853	接	接	接					𦵏
854	杯	杯	杯					盃
855	拳	拳	拳					舉舉
856	★	觴	觴					
857	矯	矯	矯					
858	手	手	手					
859	★	頓	頓					
860	足	足	足					
861	悅	悅	悅					悅
862	予	予	予					豫
863	旦	旦	旦					
864	康	康	康					
865	嫡	嫡	嫡					
866	後	後	後					
867	嗣	嗣	嗣					
868	統	統	統					續廢
869	祭	祭	祭					
870	★	祀	祀					
871	蒸	蒸	蒸					
872	★	嘗	嘗					嘗
873	★	稽	稽					
874	★	★	類	9859				
875	再	再	再					
876	拜	拜	拜					拜
877	★	悚	悚					
878	★	懼	懼					惧
879	恐	恐	恐					
880	★	惶	惶					
881	★	牋	牋					箋
882	★	牒	牒					
883	簡	簡	簡					
884	要	要	要					
885	顧	顧	顧					
886	答	答	答					
887	審	審	審					來
888	詳	詳	詳					
889	★	骸	骸					
890	★	垢	垢					
891	想	想	想					
892	浴	浴	浴					
893	執	執	執					
894	熱	熱	熱					
895	願	願	願					
896	涼	涼	涼					凉
897	★	驢	驢					𩇑
898	★	騾	騾					
899	★	犢	犢					
900	特	特	特					
901	★	駭	駭					
902	躍	躍	躍					
903	超	超	超					
904	★	驤	驤					
905	★	誅	誅					
906	★	斬	斬					
907	賊	賊	賊					
908	盜	盜	盜					盜
909	捕	捕	捕					
910	獲	獲	獲					
911	★	叛	叛					
912	亡	亡	亡					亾
913	布	布	布					
914	射	射	射					
915	☆	遼	遼					
916	丸	丸	丸		彈		避諱	
917	★	★	碁	5D46				
918	琴	琴	琴					琴瑟

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
919	★	阮	阮					
920	★	嘯	嘯					
921	★	恬	恬					
922	筆	筆	筆					筆
923	倫	倫	倫					
924	紙	紙	紙					帀
925	★	鈞	鈞					
926	巧	巧	巧					
927	任	任	任					
928	釣	釣	釣					
929	釈	釈	釈					釋
930	紛	紛	紛					
931	利	利	利					
932	俗	俗	俗					
933	並	並	並					竝做
934	皆	皆	皆					
935	佳	佳	佳					
936	妙	妙	妙					妙
937	毛	毛	毛					
938	施	施	施					
939	淑	淑	淑					
940	姿	姿	姿					
941	工	工	工					
942	★	𪛗	𪛗					
943	★	妍	妍		研		「研」は智永本などで 通用させる 通用字	
944	咲	咲	笑		咲			季
945	年	年	年					
946	矢	矢	矢					
947	毎	毎	毎					
948	催	催	催					
949	★	羲	羲		曦		通用字	
950	☆	暉	暉					
951	朗	朗	朗		晃		避諱	朧
952	曜	曜	曜		耀	耀	意味による通用字	
953	旋	旋	旋		璿		通用字	
954	★	★	璣	74A3				
955	懸	懸	懸		遷		避諱	
956	★	幹	幹					
957	★	晦	晦					
958	★	魄	魄					
959	環	環	環					
960	照	照	照					嬰嬰
961	指	指	指					
962	薪	薪	薪					
963	修	修	修					修
964	☆	祐	祐					
965	永	永	永					
966	★	綏	綏					
967	吉	吉	吉					
968	★	劭	劭					
969	☆	矩	矩					
970	歩	歩	歩					
971	引	引	引					
972	領	領	領					
973	★	俯	俯					
974	仰	仰	仰					
975	廊	廊	廊					
976	★	廟	廟					庿
977	束	束	束					
978	帶	帶	帶					帶
979	★	矜	矜					
980	莊	莊	莊					莊
981	★	徘徊	徘徊					
982	★							徊
983	★	瞻	瞻					

順番	常用漢字	JIS X208	UCS2.0	UCS-CODE	異説 1	異説 2	備考	異体字一覧
984	眺	眺	眺					
985	孤	孤	孤					
986	★	陋	陋					
987	寡	寡	寡					
988	聞	聞	聞					
989	愚	愚	愚					
990	★	蒙	蒙					
991	等	等	等					
992	★	誚	誚					
993	★	謂	謂					
994	語	語	語					
995	助	助	助					
996	者	者	者					
997	★	焉	焉					
998	☆	哉	哉					
999	★	乎	乎					
1000	☆	也	也					